

大学の世界展開力強化事業（平成24年度選定）事後評価結果

大 学 名	北海道大学
整理番号	I - 1
事 業 名	人口・活動・資源・環境の負の連鎖を転換させるフロンティア人材育成プログラム

◇大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

(総括評価) <div style="font-size: 2em; font-weight: bold; text-align: center;">A</div>	取組状況、目標の達成状況ともに事業計画を概ね満たしており、事業目的は実現された。
(コメント)	<p> 本事業は、急激な社会や経済の発展とともに都市化が進む ASEAN 諸国において、人口・活動・資源・環境システム PARE (Populations-Activities-Resources-Environments) の負の連鎖から調整・転換すべく、多彩かつ多角的な領域を支えるフロンティア人材の育成を目的とする国際連携教育システムの構築を目指し実施された事業である。 </p> <p> 事業展開では、各国のアカデミックカレンダーの違いに配慮しながら大学院進学予定者に対してショート・プログラム参加の門戸を確保することや、就職希望の修士課程修了受入学生への配慮など、学生のニーズを踏まえた対応がなされている。質の保証を伴う交流枠組み形成においては、複数大学の教員らによって PARE 課題解決に必要な4つの力を共同で評価する厳格で公平なシステムが構築されていることに加え、大学内にも質の高いプログラム提供を目的とする各種委員会が設置され、様々な協議がなされている点も評価できる。また、派遣・受入学生の学修環境の更なる向上を目指し、事務職員英語研修の実施や、NPO 法人を活用した危機管理体制を強化している。これらの対策に加えて、相手国の政情不安によってやむを得ず若干の計画変更が生じた経験を基に、複数の代替案を立てる体制整備など、可能な限り対策を講じることでプログラム展開を図っていることが確認できた。このほかに、大学の国際化推進を踏まえた情報公開と共有における環境も全学的に整っており、成果の普及に期待が持てる。 </p> <p> 一方で、単位取得を伴う長期派遣・受入数については、これまでの実績や経験を活かした対策が望まれる。 </p> <p> 最後に、今後の事業展開及び我が国の大学教育のグローバル展開力の強化のためにも、模範的プログラムとして活動が継続され、更なる議論が重ねられていくことに期待する。 </p>